

形態素解析を用いた（ヤング）ジャンプコミックス系列の タイトルの分析

相馬音佳† 西口純代‡

小樽商科大学商学部† 小樽商科大学言語センター‡

1. はじめに

日本のコミック市場はコミックス、コミック誌、電子コミックの全体で 2022 年で 6,770 億円であり、3 年連続で過去最大の市場規模を更新した。電子コミックの市場においても前年から 1 割伸長し四千億円を超えており、市場は成長傾向にあるといえる。[1]

その中で近年出版されているマンガのタイトルに着目した際、以前と比較してタイトルが長くなっていると感じた。例えば、「復讐を希う最強勇者は、闇の力で殲滅無双する」（坂本あきら、2019 年）や「Re:ゼロから始める異世界生活」（長月達平、2014 年）などである。こうしたものの多くがヒット作品となっており、人々の注目を集めている。2017 年から 2022 年にかけての主要コミックスにおけるタイトルの平均文字数について考えてみる。（図 1）



(図 1) 主要コミックスにおけるタイトル文字数の推移

各コミックスで差はあるものの、双方の平均値の推移を見ると増加傾向にあることがわかる。文字数の増加傾向と近年の人気作品の関係を考慮すると、タイトルの長文化には読者に働きかける一定の力が内在し、それを著者らが意図してタイトルを考案しているのではないかと考えられる。こうした長文を生み出す根本的な原因とは何なのであろうかその規則性の探るため、

本調査では、主要コミックスのタイトルについて形態素解析を用いて分析する。タイトルが長くなっている基準として、文字数では英語で構成されるタイトルは語彙に対して文字数が多くなることから、タイトルを構成する品詞の傾向を分析することとする。

2. 調査方法

本研究では、マンガのタイトルが長くなっている理由を「転生したらスライムだった件」（伏瀬、2014 年）がヒットしたことに伴い、その流行を受けているものと予想し、異世界系ジャンルのタイトルに着目する。データは国立国会図書館でタイトルを調べることで集めることとする。「転生したらスライムだった件」の小説版が刊行されたのは、2014 年からであり、こうした長文化したタイトルの影響が周辺の作品に及ぶのは数年後と予想して、調査対象は 3 年後である 2017 年から 2022 年までの 6 年間のデータを国立国会図書館のデータベース[2]から収集し、比較する。

また、「転生したらスライムだった件」の出版社は講談社であるが、講談社が「転生したらスライムだった件」刊行前から、この論文で研究対象として扱いたい風潮のタイトルが多い場合、正確なデータが得られないことが想定されるため、他社から刊行されているマンガとするため、出版社を集英社でレーベルをジャンプコミックス系列、ヤングジャンプコミックス系列にする。なお、ファンブックなど、内容がマンガではなく作品の解説など文章が主となるものは除く。また、形態素分析の実施については形態素分析ツールである Web 茶まめ[3]を使用する。データの中で解析できない単語を含んでいる場合には手作業で分類する。

3. 分析

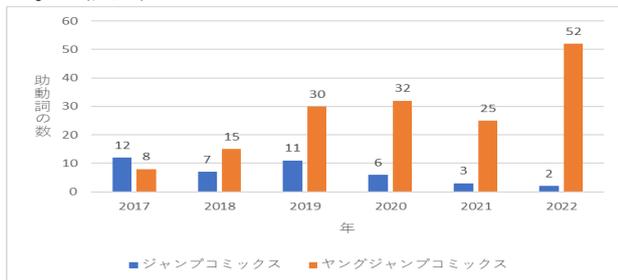
「転生したらスライムだった件」を形態素解析すると、「転生/し/たら/スライム/だっ/た/件」となり、7 つの語彙に分かれる。このうち、

Morphological Analysis of (Young) Jump Comics Series Titles

† Otoka Soma † Department of Commerce, Otaru University of Commerce

‡ Sumiyo Nishiguchi ‡ Center for Language Studies, Otaru University of Commerce

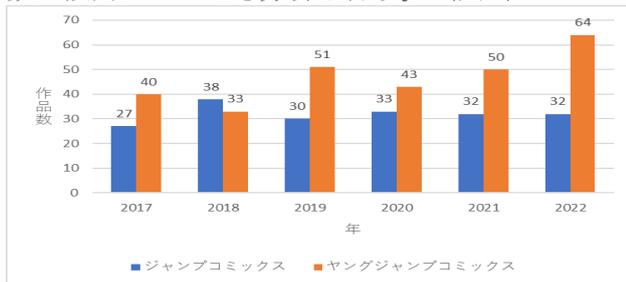
「たら」「だっ」「た」の3つが助動詞であることから、助動詞が含まれていることに着目した。(図2)



(図2) 各年のタイトルに含まれる助動詞の数

ジャンプコミックス系列では、各年のタイトルに含まれる助動詞の数に増加の傾向はない。ヤングジャンプコミックス系列では、2019年から助動詞の数が増加しており、助動詞の数が最も少ない2017年と最も多い2022年を比較すると約7倍である。

タイトルの平均文字数は増加傾向にあることは(図1)よりわかるが、最も長いタイトルの文字数の傾向についても分析を行う。(図3)



(図3) 各年のタイトルの最多文字数

ジャンプコミックス系列において、最多文字数は2018年の38文字であり、最小値の2017年の27文字と比較して11文字差である。2017年から2018年の1年間で見れば11文字増加しているものの、2019年以降は30文字から33文字の範囲であり、増加の傾向にはない。

ヤングジャンプコミックス系列においては、2020年から2022年まで、文字数が増加しており、最多文字数である2022年の64文字と、最小値の2018年の33文字と比較して31文字増加しており、文字数が増加傾向にあるといえる。各年の最も文字数の多いタイトルに含まれる品詞を調べるため、形態素解析を行う(図4、5)

	2017	2018	2019	2020	2021	2022
助動詞	1	6	3	0	0	0
助動詞	0	3	0	0	0	0
接頭辞	0	1	0	0	0	0
代名詞	1	1	1	0	0	0
動詞	0	5	1	0	0	0
副詞	0	0	1	0	0	0
補助記号	2	2	1	2	1	1
名詞	4	6	6	5	5	6
語彙数	8	24	13	7	6	7

(図4) 最多文字数のタイトルの形態素解析結果(ジャンプコミックス系列)

ジャンプコミックス系列においては6年間を通して、特に増加した傾向にある品詞はなく、タイトルの文字数が多かった2018年を除き、語彙数が増加している傾向にもない。

	2017	2018	2019	2020	2021	2022
形容詞	0	0	0	0	1	0
助動詞	2	4	5	8	9	8
助動詞	0	3	5	2	5	7
接尾辞	1	0	2	2	0	0
代名詞	0	0	0	2	1	1
動詞	1	1	4	3	6	6
副詞	0	1	0	0	0	0
補助記号	5	2	6	1	3	5
名詞	8	8	10	8	7	14
語彙数	9	11	22	18	25	27

(図5) 最多文字数のタイトルの形態素解析結果(ヤングジャンプコミックス系列)

ヤングジャンプコミックス系列においては、語と語を接続する助詞や助動詞が2019年以降、10以上含まれており、これは最多文字数の増加の傾向と一致する。

4. おわりに

タイトルが長文化している要因の一つとして、助動詞の数が増加していることが分かった。ただ、同じ出版社の大きなレーベル間でも差が見られた。今後においては、他の出版社の傾向を分析し、今回と同様の結果が得られるか調査していきたい。

5. 参考文献

- [1]『2023年版 出版指標 年報』(全国出版協会 出版科学研究所、2023年)、205 - 225 ページ
- [2]国立国会図書館, 国立国会図書館サーチ (NDLサーチ), <https://ndlsearch.ndl.go.jp/#ndls>, (参照 2023年12月15日)
- [3] 国立国語研究所, Web 茶まめ, <https://chame.ninjal.ac.jp/index.html>, (参照 2023年12月20日)